

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/index.html>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コングレ内) TEL:03-3263-5394 FAX:03-5216-5552

ご挨拶 ~発刊に寄せて~

一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) 理事長
第1回アジア太平洋膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会 会長
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 会長
広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門医学分野整形外科学

越智 光夫



このたび、有用な情報を提供し、共有する場として『JOSKASニュースレター』を発行する運びとなりました。既にJOSKASという形になって6年が経過しましたが、歴代の会長は、膝、肩、脊椎内視鏡の分野で世界的に活躍されている先生方であり、それぞれ素晴らしい教育的内容の学会が開かれ、理事長としても大変誇りに感じています。

また一方で、若手の先生方がこれまで以上に国際的に活躍できる場とするとともに、有用な情報を提供する必要があると考えてきました。そこでまず手始めに、トラベリングフェローシップをSIGASCOT (イタリア) と締結しました。毎年、日本からあるいはイタリアから2名のフェローがそれぞれの国の学術集会前後に、2週間程度交互に訪れるようになります。学術集会の期間を考慮すれば、2ヵ所程度の病院訪問になるかもしれません。詳細は追って、ホームページにてお知らせしますが、奮って応募していただきたいと思います。またそれとは別に、フランスの関節鏡学会ともトラベリングフェローシップの話を進めています。フランスにはJOSKASやISAKOSのような学会がありません。毎年、日本のフェローはヨーロッパの国を訪れ、ヨーロッパのフェローを受け入れることとなります。費用の満額は支給することはできませんが、フェローにも受け入れ先の病院にもかなりの額が学会から支給する予定になっています。できるだけ多くの先生方に応募していただき、数多くの施設が受け入れてくれることを願っています。

ニュースレター第1号では昨年 (2013年) 1月から12月までにインパクトファクターのある英文誌に3編以上掲載され、私が会長を務めた第6回JOSKASで表彰させていただいた3名の先生方、並びに2編以上掲載された先生方をご紹介しますとともに、JOSKASの膝賞、関節鏡賞、スポーツ賞を受賞された先生方から原稿を頂きました。また今回の学術集会の報告、次回の予定、第1回APKASSの報告記を掲載致しました。

有意義な情報を提供していきたいと思っていますので、ご活用ほど、お願い致します。

第1回アジア太平洋膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会 (1st congress of Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society, 1st APKASS)

平成26年4月14日(月)、15日(火)の2日間、奈良市の奈良県新公会堂で、第1回アジア太平洋膝・関節鏡・スポーツ整形外科学会(1st APKASS)が広島大学大学院整形外科学 越智光夫教授を会長として開催されました(写真1)。APKASSは1995年に設立されたアジア太平洋スポーツ整形外科学会(Asia Pacific Orthopaedic Society for Sports Medicine, APOSSM)の発展形として、2013年に設立されました。本学会のテーマは“Let's Maximize Asia-Pacific Vitality Starting from Japan”としましたが、アジア太平洋地域の膝、関節鏡、スポーツ医学の様々な活動を集結し、最大限に活用することを切望した結果、決まったものです。

越智教授の会長講演では、関節鏡および膝関節手術の発展に貢献された我が国の整形外科医とその業績を紹介し、この分野で日本が寄与してきたことの大きさを講演されました。そして記念すべき第1回として、膝関節鏡を開発された高木憲次先生と渡辺正毅先生に因み“Takagi & Watanabe Award”を設け、大阪行岡医療大学教授の史野根生先生と香港のKai-Ming Chan先生にその賞を授与する

とともに、それぞれの先生にご講演もしていただきました(写真2)。

学会では、6題のSpecial Lecture、9題のランチタイムセミナー、イブニングセミナーとモーニングセミナーは4題ずつ企画し、シンポジウムでは、前十字靭帯再建、軟骨・半月板の再生医療、最新の腱板断裂の修復・再建、関節鏡を取り上げました。一般演題は224題の応募があり、学会参加者は421名(国内201名、国外220)で大盛況でした。全員懇親会は、東大寺大仏の夜間特別拝観後に、奈良県新公会堂の庭園で開催致しました(写真3)。奈良県新公会堂は、奈良公園内に位置し、東大寺大仏殿も歩いていける距離にあり、緑に囲まれ素晴らしい景色でした。海外の皆様にはいにしへの日本の情緒を十分堪能いただけたのではないかと考えています。

本学会を開催するにあたり、奈良県立医科大学整形外科教授の田中康仁先生には、一方ならぬご尽力をいただきました。紙面を借りて感謝申し上げます。今回は、2015 Summit of Asia-Pacific knee, Arthroscopy and Sports Medicine Societyが、台湾台北市で2015年5月8日、9日に開催されます。

第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(6th JOSKAS) 第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会セミナー

第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(6th JOSKAS)は平成26年7月24日(木)から26日(土)の3日間、広島国会議場・広島市交流会館で、また、7月25日(土)26日(日)には、6th JOSKASセミナーが、広島国際会議場で、広島大学大学院整形外科学越智光夫教授を会長として開催されました(写真4)。

JOSKASは日本関節鏡学会・日本膝関節学会が基となり発展してきた会で、本年は、1975年に渡辺正毅先生が日本関節鏡学会・日本膝研究会を創設されてから記念すべき40周年を迎えることになりました。そして、JOSKAS学会が創設した“Masaki Watanabe Award”が北海道大学安田和則教授と米国ピッツバーグ大学Freddie Fu教授に贈呈され(写真5)、それぞれの教授には“Masaki Watanabe Award Lecture”として講演していただきました。

本会のテーマである「創造力は未来を拓く」を基に、フランスからPhilippe Neyret教授、スウェーデンからMats Brittberg教授、イタリアからはGiuliano Cerulli教授、Paolo Adravanti教授、Castagna教授、米国よりMarc Safran教授、Christopher Chuinard教授、Andreas Gomoll先生、台湾よりHwa-Chang Liu教授、Chih-Hwa Chen教授、スイスよりPeter Koch先生を招いて、招待講演、シンポジウム、パネルディスカッション、広島セミナーを企画致しました。

初日には越智会長の会長講演、2日目には元広島カープで国民栄誉賞を受章された衣笠幸雄さんとスポーツジャーナリストの二宮清純さんの対談を企画し、多くの聴衆を集めました。学会の演題は韓国やサウジアラビアなどの海外からの応募も含め953題があり、2,110名もの参加者を得ることができました。全員懇親会では“JOSKAS Outstanding Young Investigator award”の表彰を行い、また、恒例の綱引き大会では広島大学が初優勝し、予想外の喜びを得ることができました。

今年のJOSKASセミナーは、143名の参加を得て開催致しました。セミナー懇親会はマツダ球場での野球観戦を企画し、越智会長の始球式とともに乾杯し、セミナーの講師の先生方と参加者と懇親を深めました。

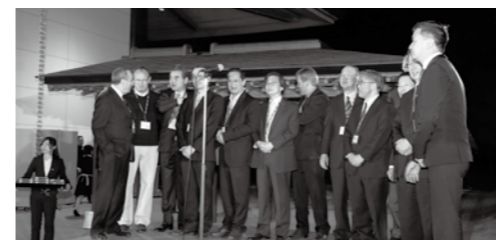
また、7月27日(日)の市民公開講座は、「ロコモティブシンドロームの予防と治療—軟骨障害から変形性関節症—」と題して、国立障害者リハビリテーションセンター総長 中村耕三先生、広島県立障害者リハビリテーションセンター副所長 安永裕司先生、広島大学病院整形外科准教授 安達伸生先生の講演とともに、元広島カープで元メジャーリーガー(ニューヨーク・メッツ)の高橋建さんに「私の野球人生」と題して講演していただき、本市民公開講座も満席で大盛況に終えることができました(写真6)。



(写真1) 1stAPKASSのボードおよび参加国の国旗



(写真2) Takagi & Watanabe Awardを越智会長より授与された Kai-Ming Chan教授(香港)(中央)と史野根生先生(写真右)



(写真3) 全員懇親会でのAPKASS fund raising committeeと欧米からのゲストの紹介



(写真4) 挨拶される越智会長



(写真5) Masaki Watanabe awardを受賞された北海道大学の安田和則教授(写真左)と米国ピッツバーグ大学のFreddie Fu教授(写真右)、Masaki Watanabe awardの紋章(写真中央)



(写真6) 市民公開講座で挨拶される越智会長と満員の会場

2014年度JOSKAS学会賞 ～受賞者のことば～

関節鏡賞

行岡病院スポーツ整形外科 中川 滋人

このたび、「関節窩骨欠損を伴う外傷性肩関節前方不安定症に対する鏡視下骨性Bankart修復術で骨癒合は得られるか?」という論文でJOSKAS関節鏡賞を受賞させて頂きました。2年前にも、「骨性バンカート病変を有する反復性前方脱臼・亜脱臼にみられる骨片の骨吸収・骨吸収はいつ起こるのか?」でJOSKASスポーツ賞を頂いており、大変光栄なことと存じます。これら一連の研究を始めたきっかけは、2010年の第2回JOSKASにおいてパネル「コンタクトスポーツ選手の肩関節前方不安定症に対する手術術式」にパネリストとして選んで頂いたことからです。3D-CTを眺めているうちに、関節窩骨欠損の大きさに比べ、それに対応すべき骨性Bankart病変の骨片の大きさが非常に小さかったり、無かったりする症例が多いことに気づきました。今回、骨片が小さくなると、これを修復しても骨癒合率が低く再発しやすいこともわかったことから、受傷早期にCT評価を行い、骨傷が見られる場合には、早期に修復することが好ましいのではないかと考えています。

2004年に当院に赴任して以来、多くの肩関節脱臼症例を経験できたのは、当院で長年スポーツ整形外科の実績を重ねてこられた史野根生先生とそれを支えて下さった阪大スポーツクリニックの先生方のおかげです。また、長きにわたり指導していただきました米田稔先生・林田賢治先生をはじめとした肩関節グループの先生方の存在がなければ、今回のような成果が上がりなかつたのは言うまでもありません。受賞の報告とともに、お礼の言葉とかえさせていただきます。

膝賞

北海道大学大学院医学研究科 スポーツ医学分野 河口 泰之

このたびは、広島で開催されました第6回JOSKASにおいて、「半月板欠損部に筋膜で内包した自家半月板細片の移植が半月板再生に与える効果:大動物(成羊)モデルを用いた研究」のテーマでJOSKAS学会賞「膝」部門をいただきましたことを誠に光栄に存じます。

本受賞研究は、膝半月板切除後の欠損部に対する半月板修復・再生という夢の次世代治療戦略実現に向けた研究です。善衆会病院 整形外科の故小林保一先生に動物実験の手術手技を直伝いただくなど、多くの関係者の方々のご協力・ご指導のもと遂行させていただきました。今後もこの戦略の早期実現に少しでも貢献できますよう、研鑽を重ねていく所存です。

最後に、安田和則教授、近藤英司教授をはじめ共著者の先生方および関係者の方々、越智光夫理事長・会長をはじめ本研究を評価していただいた選考委員の先生方にこの場をお借りして深謝致します。

スポーツ賞

弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 佐々木 静

第6回JOSKAS総会にて私の投稿論文である「膝前十字靭帯再建術後患者の片脚スクワット動作における動的な下肢アライメント」が学会賞に選出されましたので、この場をお借りして受賞報告と研究内容についてご報告申し上げます。

解剖学的ACL再建術が確立された現在もなお、術後再建靭帯損傷や反対側損傷は解決されていない問題のひとつです。大部分がスポーツ選手に発生するACL損傷において、術後の早期競技復帰は多くの患者の切実な願いですが、現状では競技復帰時期に関する明確な基準が定められていません。本研究結果から、下肢筋力の回復を基準に競技復帰を許可された患者の中にも、動的な下肢アライメントの回復が不十分である患者が含まれていることがわかりました。ACL再建術後の再建傷予防の観点からは、理学所見や下肢筋力のみならず、よりスポーツ動作に近い状況下での動的な神経筋コントロールの評価が重要と考えられました。

最後になりますが、研究、論文執筆に際してご指導いただきました弘前大学整形外科学講座石橋恭之教授、津田英一准教授に深く御礼申し上げます。



JOSKAS Outstanding Young Investigator Award

2013年に多くの英語論文を投稿・掲載された先生方を第6回大会にて表彰しました。

メイヨークリニック バイオメカニクス研究室 八田 卓久

このたびはJOSKAS Outstanding Young Investigator Awardという大変名誉な賞を賜り、誠に光栄に存じます。私を推薦して下さいました東北大学整形外科井樋栄二教授をはじめ、御指導頂きました先生方に深く御礼申し上げます。

昨年は、竹田総合病院で肩関節鏡手術を中心に臨床業務に携わりながら、東北大学大学院在学時に行ってきた研究を論文報告させていただきました。内容は、近年指摘されている喫煙と腱板断裂との関連性に対してその発生機序を調べた基礎的研究 (J Orthop Res)、肩鎖関節の関節症性変化の局在性に関する組織学的検討

(Surg Radiol Anat)、初回肩関節前方脱臼患者に対して用いられる肩外旋位固定装置の機能性に関する研究 (Upsala J Med)、腱板内に発生した骨化性筋炎の治療報告 (J Orthop Sci) です。

今春からは米国メイヨークリニックに留学し、肩関節のバイオメカニクス研究を行っております。この受賞を励みにより一層精進致しますので、今後とも宜しくお願い致します。



弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 佐々木 英嗣

2014年度のJOSKASにおきまして、英語論文の年間掲載数から Outstanding Young Investigator Awardに選出いただきました。素晴らしい賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。この場をお借りして受賞の報告と研究内容の紹介をさせていただきます。

私の大学院での研究分野は変形性膝関節症の疫学調査とスポーツ選手のコンディショニングに関する研究でした。2013年度に掲載された論文は別掲の3編と、人工膝関節置換術施行後の患者立脚型評価が従来型の医師立脚型評価と異なるoutcomeを示すことを明らかにした「Relationship between patient-based outcome

score and conventional objective outcome scales in postoperative total knee arthroplasty patients」になります。

研究デザインの考え方や論文作成の基本からご指導いただきました石橋恭之教授をはじめ、ご協力いただきました皆様にご場をお借りして深く御礼申し上げます。また、今後も臨床での疑問に向かい合い、様々な角度から解決に向けて取り組んでいけるよう努力していく所存ですので、ご指導のほどよろしくお願い致します。



東京大学 整形外科 特任講師 武富 修治

このたびはJOSKAS Outstanding Young Investigator Awardを頂き、誠にありがとうございます。今年新たに設けられた賞の第1回目の受賞ということで大変光栄に、また嬉しく思っております。

私は、東大の関係病院をローテーションした後、2009年に大学に戻り、膝関節を中心とした下肢のスポーツ外傷・障害を専門に診療、臨床研究を行ってきました。主な研究テーマは、膝靭帯再建術におけるナビゲーションの応用や、術後CTによる骨孔拡大や骨孔位置についての解析などです。2012年からは膝スポーツ診療グループのチーフをさせていただいております。

臨床家として大事なことは、まず目の前の患者さんにできるだけよい医療を提供することだと思います。さらには、よい方法や経験は外に発信していくことで、世に広めていくことも重要です。日本の優れた技術やアイデアを、国内はもちろん世界に発信していなければならないと感じています。すばらしい経験や技術を持っていても、外に発信しないばかりに何もしていないととらえられてしまうのは、とても残

念なことです。自分たちの臨床の仕事を残したいという思いが、今回の受賞につながったのかなと勝手に考えております。

意外に思われる方もいるかもしれませんが、東大でも基礎だけでなく臨床を頑張っている仲間や若手がたくさんいます。彼らに少しでも希望を与えることになり、後に続いてくれればこの上ない喜びです。受賞させて頂き、今後も新しい知見を発信していかなければならないと身の引き締まる思いを感じるとともに、後輩が同じような賞を受賞させていただけるよう指導していくのも私の仕事と考えております。今回の賞は、私の諸先輩のご指導、仲間・後輩・家族の協力はもちろんのこと、学会でいつも励ましの言葉をかけて下さる多くの先生方のご指導により頂くことができたと思っております。この場を借りて感謝申し上げますと同時に、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



JOSKAS Outstanding Investigator

2013年にインパクトファクターのある英文誌に2編以上掲載された先生方とその論文

※「JOSKAS Outstanding Investigator」は今後も継続することが決定しました。次回からはAP-SMARTを選考対象に含めます。

- 八田卓久 (東北大学整形外科)
 - Myositis ossificans of the rotator cuff muscle. J Orthop Sci. 2013 Jul;18(4):675-8.
 - Immobilizing performances, comfort, and user-friendliness of the shoulder abduction-external rotation braces. Ups J Med Sci. 2013; 118(2): 105-10.
 - Localization of degenerative changes of the acromioclavicular joint: a cadaveric study. Surg Radiol Anat 2013; 35(2): 89-94.
 - Nicotine reduced MMP-9 expression in the primary porcine tenocytes exposed to cyclic stretch. J Orthop Res 2013; 31(4): 645-50.
- 佐々木英嗣 (弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座)
 - Serum hyaluronan levels increase with the total number of osteoarthritic joints and are strongly associated with the presence of knee and finger osteoarthritis. Int Orthop. 2013 37(5):925-30.
 - Evaluation of locomotive disability using loco-check: a cross-sectional study in the Japanese general population. J Orthop Sci. 2013, 18 (1):121-9.
 - Effect of glutamine supplementation on neutrophil function in male judoists. Luminescence. Luminescence. 2013 Jul-Aug;28(4):442-9.
- 武富修治 (東京大学整形外科)
 - Iliotibial Band Irritation Caused by the EndoButton after Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: Report of Two Cases. Knee. 2013 Aug;20(4):291-4.
 - Stress Fracture of the Anterior Process of the Calcaneus: A Case Report. Foot Ankle Spec. 2013 Oct;6(5):389-92.
- 入内島崇紀 (上牧温泉病院 [群馬県])
 - Patient selection of anatomical double bundle or traditional single bundle ACL reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Mar;21(3):571-5.
 - Size comparison of ACL footprint and reconstructed auto graft. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Apr;21(4):797-803
 - Graft impingement in anterior cruciate ligament reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Mar;21(3):664-70.
 - ACL footprint size is correlated with the height and area of the lateral wall of femoral intercondylar notch. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Apr;21(4):789-96.
- 古賀英之 (東京医科歯科大学大学院運動器外科学)
 - Effect of femoral tunnel position on graft tension curves and knee stability in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Sep 24.
 - Effect of posterolateral bundle graft fixation angles on graft tension curves and load sharing in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction using a transtibial drilling technique. Arthroscopy. 2013 Mar;29(3):529-38
- 渡邊敏文 (東京医科歯科大学大学院軟骨再生学)
 - Intraoperative joint gaps affect postoperative range of motion in TKAs with posterior-stabilized prostheses. Clin Orthop Relat Res. 2013 Apr;471(4):1326-33.
 - Knee kinematics in anterior cruciate ligament-substituting arthroplasty with or without the posterior cruciate ligament. J Arthroplasty. 2013 Apr;28(4):548-52.

- 亀井豪器 (市立三次中央病院 [広島県])
 - Articular cartilage repair with magnetic mesenchymal stem cells. Am J Sports Med. 2013 Jun;41(6):1255-64.
 - A new distraction arthroplasty device using magnetic force; a cadaveric study. Clin Biomech (Bristol, Avon). 2013 Apr;28(4):423-8.
- 数佐洋美 (広島通信病院)
 - Strong adhesiveness of a new biodegradable hydrogel glue, LYDEX, for use on articular cartilage. J Appl Biomater Funct Mater. 2013 Dec 16;11(3):e180-6.
 - Augmentation technique for anterior cruciate ligament injury. Clin Sports Med. 2013 Jan;32(1):127-40
- 矢部裕 (東北大学整形外科)
 - Thoracic radiculopathy caused by ossification of the ligamentum flavum. Ups J Med Sci 2013; 118: 54-8.
 - Joint immobilization induced hypoxic and inflammatory conditions in rat knee joints. Connect Tissue Res. 2013; 54(3):210-7.
- 山本宣幸 (東北大学整形外科)
 - Does the "bumper" created during Bankart repair contribute to shoulder stability? J Shoulder Elbow Surg 2013; 22(6): 828-34.
 - The stabilizing mechanism of the Latarjet procedure: a cadaveric study. J Bone Joint Surg Am. 2013; 95: 1390-7.
- 中瀬順介 (金沢大学附属病院整形外科)
 - Whole body muscle activity during the FIFA 11+ program evaluated by positron emission tomography. PLoS One. 2013 Sep 16;8(9)
 - Roles of ACL remnants in knee stability. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Sep;21(9):2101-6.
- 松下雄彦 (神戸大学整形外科)
 - The overexpression of SIRT1 inhibited osteoarthritic gene expression changes induced by interleukin-1 β in human chondrocytes. J Orthop Res. 2013 Apr;31(4):531-7.
 - Medial patellofemoral ligament reconstruction with lateral soft tissue release in adult patients with habitual patellar dislocation. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Mar;21(3):726-30.
- 松本知之 (神戸大学整形外科)
 - Joint gap kinematics in unicompartmental knee arthroplasty. Clinical Biomechanics. 2013 Jan;28(1):29-33.
 - Different pattern in gap balancing between the cruciate-retaining and posterior-stabilized total knee arthroplasty. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Oct;21(10):2338-45.
- 星野祐一 (神戸海星病院整形外科)
 - Quantitative evaluation of the pivot shift by image analysis using the iPad. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Apr;21(4):975-80.
 - Can joint contact dynamics be restored by anterior cruciate ligament reconstruction? Clin Orthop Relat Res. 2013 Sep;471(9):2924-31.
- 石田一成 (神戸海星病院整形外科)
 - Interactions between FGF21 and BMP-2 in Osteogenesis. Biochem Biophys Res Commun. 2013 Mar 22;432(4):677-82.
 - Cartilage Oligomeric Matrix Protein Enhances Osteogenesis by Directly Binding and Activating Bone Morphogenetic Protein-2. Bone. 2013 Jul;55(1):23-35.
- 荒木大輔 (神戸大学整形外科)
 - An analysis of surface profile for cylindrical osteochondral grafts of the knee quantitative evaluation using a three-dimensional laser scanner. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2013 Aug;21(8):1794-800.
 - Biomechanical analysis of the knee with partial anterior cruciate ligament disruption: quantitative evaluation using an electromagnetic measurement system. Arthroscopy. 2013 Jun;29(6):1053-62.

お知らせ

第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

会長 齋藤知行 横浜市立大学整形外科 会期 2015年6月18日(木)～20日(土) 会場 札幌コンベンションセンター

・大会HP : <http://www.congre.co.jp/joskas2015/index.html>
・お問合せ先 : 運営事務局 株式会社コングレ内 TEL : 03-5216-5318 FAX : 03-5216-5552 E-mail : joskas2015@congre.co.jp

※利益相反(COI)の申告について
第7回大会より、口頭発表およびポスター発表をされる方は、利益相反の申告にご協力をお願い致します。詳しくは、大会HPにてご案内致します。